

対話での問いかけ

コロナ禍で多くの生徒がオンライン学習を経験。また各校の ICT 環境整備も進んでいます。ICT を活用した学びが普及する中、学びのデザインはどう変わるのか？下記の問いかけを基に、対話を通じて考えを深めました。

理想の授業像はどう変わるか？「授業で教える」「授業で与える」の意味は？

ICT を活用して学びが深まるとは、どういうことか？

学校外でも学びを得られる中、「生徒が参加したい授業」とはどのようなものか？

テーマ設定 背景

今回の対話は、5月12日対話『学びのサイクルを考える』の続編として開催しました。その対話では「ICT を活用することによって、学びのサイクルも変わるのではないか？」といった問いが出ていました。では具体的に何が、どう変わるのでしょうか。「教室の『授業を受ける』という暗黙の強制を今一度見つめるべきではないか」「教員も生徒も、授業観＝授業とはこういうものだ、を問い直すべきではないか」などの問題意識を持ち寄り、対話を進めました。

話題提供 - 松井 恵一 先生（北海道旭川東高等学校） -

- ・ICT を使って“学びを止めるな！”を実践することは難しくない。大切なのは学びの深まりをどう出すか。
- ・教室というオフラインの場が生む「無自覚な強制」に注意したい。生徒の学びの意欲と反するケースがある。
- ・「授業とはこういうもの」を変えられるか？GIGA スクール構想において授業観の更新が大切ではないか。
- ・学びのあり方を再度考えたい。生徒が一層満足感・充実感を覚えるよう、どう教員は学びに関わるべきか。



対話の声

- ・生徒自身が、何を、どういう風に使うといいのかを考える支援をしていきたい。(東京)
- ・教員はキャッチャーで生徒がピッチャーだが、逆になりがち。ICT 活用の前提として考えたい。(福島)
- ・デバイスを持つと、教員以上に生徒の方がエンパワーメントされる。他律から自律へ転換すべき。(大阪)
- ・ICT を使ったら OK とならないか懸念する。何を持って良い学び・良い使い方とするか深めたい。(福井)

本プロジェクトへの「ご参加希望」「校内での対話型研修会のご要望」等は、運営事務局 ベネッセ教育総合研究所 次世代の学び研究室(nextlearning@mail.benesse.co.jp)までご連絡ください。

本プロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により全国の学校が休校せざるをえなかったことをきっかけに、有志により発足されました。プロジェクトでは、毎週行う学校教育活動に関する対話を通じて、「学校教育の革新と、生徒の気づきと学びの最大化」を目指しています。これまでに全国約 80 校から主に中学校・高等学校の教員が参加しています。過去の対話履歴はこちらをクリックください。 [2020](#) [2021](#)

京大と学校の対話

2021.06.30 19:00 ~ 「GIGAスナック」の準備 北海道教育大学 不仲恵一

2021.4 ~ 校務用PC整備

... 接続制限なし
教員 chrome book 配布



しかし... 一部利用にヒビ

2021.5 ~ PC導入実験室

2021.5.18 ~ 国産情報基幹研修

2021.5.24 ~ 分散授業開始



2021.6.14 ~ 直前遠隔開始

1 授業準備の準備

準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...

準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...

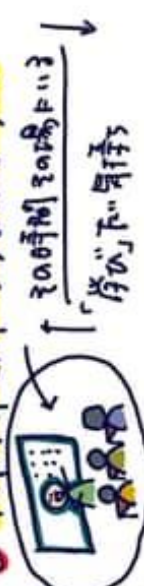
準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...
準備... 準備... 準備...

何で... 準備... 準備...
① 対面授業の再整理と保証? 終り準備は必ずする
② 「教室のやりかた」を最高品質に
と、二十分程度は下とキフ
「近づくも良い」と「近づくも悪い」
再整理が必要なものもある

授業の準備と授業の準備?

授業の準備と授業の準備

- ① 「学びの面道がある授業の準備」
- ② 満足感や充実感はどのように作るか?
- ③ 授業時間、空間から「学習能力」を出す



④ 情報整理の必要性はどのように感じるか?